



幸せな農村生活を送るために！

## 農事組合法人 KAMIX

かみっくす

### 1 経営内容

#### (1) 栽培技術の特長

- 水稻栽培に関しては「農地・水・環境保全向上対策事業」の営農支援活動を行い、集落全体で環境保全型農業に取り組んでいる。
- 転作部門では平成10年度に圃場整備事業が完了した圃場を、転作地として固定することで良質米の安定生産と転作作物の生産性の向上を図っている。
- 固定団地を維持する要件として、3年に1度は水田に戻して飼料用米を作付けし、水田機能を損なわないように配慮している。

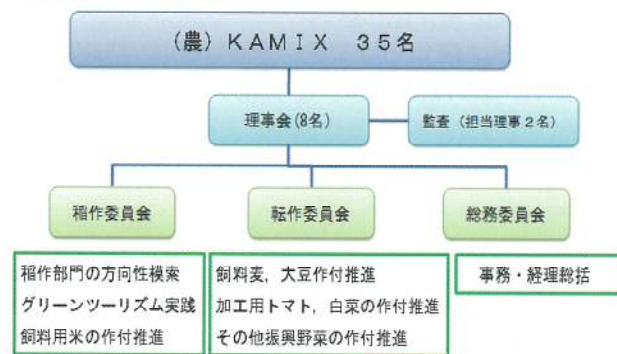
#### (2) 販売の特長

- 米の多くは、JA出荷を行っている。
- 一部は、都市-農村交流事業で子ども達が作付けた米や野菜を子ども達のPTAに販売している。特に仙台市立H小学校とは積極的の交流し、授業参観日に米の販売等を行っている。

#### (3) 経営組織の特長

- 集落内に利益を行き渡る仕組みとして、園芸部門(加工トマト・加工はくさいなど)を導入している。
- 転作大豆や大麦などは大型機械を導入しているため作業する農業者の人数は限られるが、手間のかかる園芸部門を導入することで、小規模農家や非農家の作業参加も可能になり、地域内に作業労賃を還元する体制としている。

#### (4) 労務管理の特長



稲作委員会、転作委員会、総務委員会と3委員会を設置し、労務管理や財務管理を実施している。特に、農事組合法人後に総務委員会を立ち上げた。

#### (5) 経営管理の特長

会計期間は1月~12月としている。  
農事組合法人になることで、これまで農業者同士の農用地利用権設定から、農事組合法人と個人との利用権設定が可能となったため、集落の農地集積率が78.3%となり農地の効率的な利用が可能となった。

#### (6) その他の特長

当農事組合法人の特徴的な取り組みとして、「都市-農村交流事業」が上げられる。中新田交流センターを宿泊拠点とし様々な農業体験メニューを提供している。その中でも助成金なしでの活動を可能にするため、子ども達が作った米や野菜の販売額の25%を基金として積み立てるなど工夫をしている。  
「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組むため集落営農組織当時から構成員全員がエコ・ファーマーを取得しているが、農事組合法人でも継続的に工

## プロフィール

(農業地帯) 平地農業地域  
(組織形態) ぐるみ型  
(エリア) 1集落  
(農地集積率) 78.3%

#### 経営概要

耕地面積 120ha (うち水田面積115ha)  
水稻作付面積 80ha  
集団転作面積 25ha  
(内訳 大豆12ha, 飼料用米8ha, 加工トマト0.5ha, 加工はくさい0.5ha, その他)  
個人転作 10ha

#### 主な施設・機械の保有

田植機8条 1台  
コンバイン5条 1台

#### 構成員等

構成員35名 (専業農家1戸, 第1種兼業農家5戸)

#### 法人設立年月日

平成24年4月4日

#### 認定農業者認定年月日

平成24年5月1日

#### 出資金

175万円 (5万円/人)

#### 販売額

6,000万円

#### 役員名

代表理事組合長 近田利樹 その他理事 7名

#### 所在地

〒981-4222 加美郡加美町下新田字太田126番地  
TEL.0229-63-6571 FAX.0229-63-4681

#### 主な過去の導入事業

平成23年度経営体育成支援事業

コ・ファーマーを取得し環境に優しい農業に取り組んでいる。

### 2 これまでの経過

#### (1) 法人化するまでの特徴的な取り組み

平成19年に集落営農組織が立ち上がり、水稻・大豆ばかりではなく、飼料用米・加工はくさい等の多彩な転作作物生産や小学校の体験交流受け入れ等を集落ぐるみで行ってきただ。

#### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

集落営農組織設立から5年目を迎え「今後これまでの活動を積極的に継続していくため、今後集落の中で農地集積の受け皿が必要であり農事組合法人になることが解決策となる」との意見が出されたことから法人化に向けての取り組みを始めた。

平成22年度から法人化に向けた勉強会を開催した。勉強会は「加美町担い手支援センター・JA加美よつば、県担い手育成総合支援協議会、農業改良普及センター」で専門家の派遣や問題点・課題整理等について支援を受け、集落内での合意を得て平成24年4月法人の設立となった。

### 3 今後に向けて

#### (1) 解決すべき課題と現在検討中の対応方針

- 地域の担い手(後継者)確保  
農事組合法人という受け皿が出来たことにより、後継者の確保が課題になっている。
- 経営の発展対策  
地域特色のある稲作経営、安定的な園芸作物の導

入、社会貢献としての交流活動を柱に活動を行う。

#### (2) 今後に向けての経営戦略

(農)KAMIXの地域をまるごとブランド化していく活動を行っていく。

(調査:大崎農業改良普及センター)



### 視察受入条件

- 視察料 一時間当たり7,000円